

多根脳神経リハビリテーション病院

2022 年度年報

目次

病院概要	2
診療部	3
看護部	4
リハビリテーション科	6
放射線科	8
医療生活相談室	9
薬局	11
栄養科	13
事務部	14
資格一覧	15
学会発表	16

〒552-0011 大阪市港区南市岡 1-1-45

TEL：06-6585-2743 (代表) FAX：06-6585-2048

交通：

電車

JR 環状線大正駅または大阪メトロ長堀鶴見緑地線大正駅下車徒歩 10 分

阪神なんば線ドーム前駅下車徒歩 8 分

大阪シティバス

なんば駅前(60)天保山行、境川下車すぐ

大阪駅前(88)天保山行、境川下車すぐ

淀屋橋駅前(107)弁天町バスターミナル行、境川下車すぐ



【病院概要】

院長	青池 太志
開設日	2001 年 (平成 13 年) 6 月
病床数	50 床
標榜科目	脳神経内科・リハビリテーション科・精神科・心療内科・放射線科
土地・建物 (㎡)	敷地面積 1,578.43 ㎡ 延床面積 3,133.63 ㎡
基準関係	回復期リハビリテーション病棟入院料1/脳血管疾患等リハビリテーション料(1)/連動器リハビリテーション料(1)/外来リハビリテーション診療料

(2023 年 3 月現在)

当院は回復期病院であり、急性期加療を受けた後の患者さんのリハビリテーションを担っています。対象となる疾患は、脳卒中、脊髄損傷、骨折、変形性関節症の手術後などです。病院名に「脳神経」とあるように、脳卒中などの脳神経系疾患の患者さんが多く入院しています(80%程度)。

当院は、基本的な人員(医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士)のみならず、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医、脳神経内科専門医、脳神経外科専門医、リハビリテーション認定看護師、呼吸療法認定士、社会福祉士などの有資格者を揃え、各専門職は標準以上の能力を備えていると自負しています。また、当院を退院した患者さんのアフターケアとして、必要に応じて、外来や訪問でのリハビリテーションを実施できる体制を整えています。「病院」としての機能は弱い面がありますが、多根総合病院との連携により、患者さんの病状に合わせた対応が可能になっています。傑出した特徴があるわけではありませんが、保険診療の範囲で可能な方法は実施できますので、少なくとも「標準的なリハビリテーション病院」とは言えるでしょう。

今後の高齢化社会では、リハビリテーションの必要性はますます高まると予想されます。当院も、「ヒト」と「モノ」の向上をはかり、「地域包括ケアシステム」の一翼を担うことができるように、病棟内外の機能を高めていきたいと思えます。

◆診療部

【部署概要】

当院の特徴は、回復期リハビリテーション（リハビリ）病棟を有し、脳卒中などの脳神経系疾患や大腿骨頸部骨折などの運動器疾患を対象としている。当院の医師の基本的な業務は、患者さんの身体および精神状態を適切に管理し、集中的なリハビリを可能とし、その効果を期待できる状態を維持することにある。さらに、各部署と連携し、リハビリの目標設定、入院期間の調整、退院経路の設定、退院後の環境調整などの治療および療養計画を提示し、患者さんのFIM（機能的自立度評価法）利得や自宅退院率の向上を目指している。

また、診療以外に、医療安全対策、感染対策、防災対策、臨床研究指導（倫理委員会）も行っている。

【診療・部署体制】

当院に入院する患者さんは、多根総合病院の脳神経内科、脳神経外科、整形外科からの転院が主体となっている。他院からの入院については、地域性や専門性を考慮して対応している。常勤医師は3名と少数ではあるが、病棟業務に加え、外来リハビリや訪問リハビリなど病棟外業務も行っている。各医師は、専門性を生かして基礎疾患の治療を行いながら、多職種（医師、看護師、療法士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士）とのカンファレンスを通じて最適なりハビリ提供を目指している。

【特色・トピックス】

当院の特色は、休日・祝日も含めて休みなく毎日リハビリを提供しているところにある。目標課題として、先進的なリハビリ医療（リハビリロボット、機能的電気刺激など）の導入、外来リハビリや訪問リハビリの拡充、適応疾患の拡大が挙げられる。

【診療・部署実績】

当院の診療上の主な目標は、入院患者の日常生活動作レベルの改善と自宅への退院にある。当院の入院患者数や外来患者数、病床利用率、リハビリ実績指数、在宅復帰率など各種指数は、他部門（看護部、管理部、リハビリ部）の報告に記載されている。経営上の目標でもある、「リハビリ病棟入院基本料Ⅰ」に必要な構造指標、過程指標（人員、病棟、リハビリ提供量）と成果指標（入院時重症患者比率、入院時重症患者の回復率、在宅復帰率、リハビリ実績指数）を満たした。

◆看護部

【部署概要】

回復期リハビリテーション病院では対象患者に対して、患者の残された能力を最大限に活かし、日常生活の援助を通じてADLの改善と患者に適した環境への社会復帰を目指している。そのために看護師は、入院中の原疾患の再発や合併症の予防管理、慢性疾患のコントロールの支援を行うと同時に、退院後も患者自身もしくは援助者の手をかりて疾患をコントロールしていくために必要な情報提供や指導を受け持ち患者中心に行っている。また、訓練を日常生活に活かしつつ修得していけるように、看護師チーム活動を通して他職種と協働し退院支援を行っている。

【診療・部署体制】

看護部体制

看護部・病棟の2部門

病床数：50床・2フロア 1看護単位

病棟看護体制：固定チーム受け持ち制、一部機能別

変則交代勤務 夜間勤務員・・・看護師3名、看護補助者1名

施設基準：回復期リハビリテーション病棟入院基本料1 看護師13対1、看護補助者30対1

【特色・トピックス】

- 1.回復期リハビリテーション病棟入院基本料1の維持
- 2.看護師によるチーム活動の推進
 - 1) 褥瘡・スキンケア予防チーム
 - 2) 転倒転落予防チーム
 - 3) 排泄自立チーム
 - 4) 摂食嚥下機能チーム
 - 5) ☆感染予防チーム
 - 6) ☆災害対策チーム ☆印は多職種チーム活動
- 3.摂食嚥下看護認定看護師資格取得・・・1名
- 4.認知症ケア加算2算定開始
- 5.大阪府病院協会看護専門学校への講師派遣
- 6.看護師チーム活動、看護補助者TQM活動発表会
- 7.全職員対象としたPPE着脱シミュレーション訓練の実施

【診療・部署実績】

- 1.チーム活動結果
 - 1) 褥瘡・スキンケア予防チーム…「基本のポジショニング写真」の掲示や褥瘡予防具の適切な使用法と、「スキンケア予防フローチャート」を作成し周知した。結果、当院での新規入院患者における「褥瘡発生率」は3名(1.4%)、スキンケア発生率も3名(1.4%)であり、目標の「0」は到達しなかったが、スタッフへの意識付けはできた。
 - 2) 転倒転落予防チーム…ADLの拡大、高次機能障害など患者の理解不足によって転倒転落が起これることを踏まえて対策を行ったが、51件/年の転倒転落インシデントが発生した。
 - 3) 排泄自立チーム…排尿動作FIMの改善を目指し、セラピストと協働し関わった結果、FIM2～4の患者の75%がFIM5以上に改善した。また患者に合ったおむつの当て方をスタッフに周知した。
 - 4) 摂食嚥下機能チーム…正しい食事姿勢イラスト、フローチャート、口腔ケアマニュアルが日常的に可視化でき、実践につながるようにスタッフに働きかけた。誤嚥発生率は8%、経口摂取獲得率は50%だった。
 - 5) 感染予防チーム…感染予防や感染Q&Aなどを「便り」という形で掲示した。2回のCOVID-19のクラスター発生をチャンスと捉え、その後のスタッフへの感染予防行動や知識習得に向けて活動した。
- 2.関連施設からの転院を中心に、「回復期リハビリテーション病院入院基本料1」の施設基準は維持できた。しかし、COVID-19クラスターにより一時的に使用できない病床が発生したため年間の病床稼働率は91%にとどまった。

【診療報酬データ】

入院患者数	250 人	新入院重症度率	46.5%
退院患者数	254 人	日常生活改善率	52.4%
対象外入院患者数	0 人	FIM 実績指数	47.8
平均入院患者数	45 人	退院前カンファレンス件数	70 件
平均病床稼働率	91%	入院時訪問指導件数	1 件
平均在院日数	64 日	家屋調査件数	12 件
在宅復帰率	85.8%		

【診療科別患者動向】

診療科	入院数	発症から入院まで	平均在院日数	退院数
脳神経内科	141 人	26.5 日	68.8 日	134 人
脳神経外科	64 人	31.7 日	62.1 日	67 人
整形外科	45 人	28.7 日	50 日	52 人
全体	250 人	28.1 日	64 日	254 人

【看護部実績データ】

褥瘡院内発生率	1.4%
インシデント発生件数	108 件
転倒転落インシデント発生件数（再掲）	51 件
ヒヤリハット報告件数	117 件

◆リハビリテーション科

【部署概要】

急性期治療の後、回復期でのセラピーを医師の指示のもとに集中的に実施する事が当科の役割です。対象となる患者さんは、回復期病棟の適応疾患である脳血管疾患等の神経系疾患、下肢骨折等の運動器疾患の患者さんが中心です。業務内容は、患者さんの基本動作、ADL、コミュニケーション、摂食・嚥下機能等の改善を図るセラピーを実施することです。医師を中心とした多職種カンファレンスで計画された目標に向かって、それぞれの患者さんに応じた柔軟な対応を心がけています。

【診療・部署体制】

当科では、医学的リハビリテーションの専門分野である、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を実施しています。それぞれ、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）が実施します。これら三部門が、回復期リハビリテーションの大きな目的の一つである自宅復帰・社会復帰に向けて、それぞれの技能を駆使しつつ、医師、看護師、MSW、薬剤師、栄養士等と協力しながら、効果的なチームアプローチを実践しています。退院後のアフターケアとして、外来リハビリテーション及び、訪問リハビリテーションを実施しています。

【特色・トピックス】

- ・回復期治療が必要な患者さんに対して、各部門の専門性を最大限に発揮した治療業務
- ・回復期病棟アウトカム評価で最上位の成果基準の達成
- ・合同カンファレンスへの参加・準備進行
- ・KHSリハビリテーション科としての関連施設との連携
- ・臨床実習生の受け入れ（大阪行岡医療大学、森之宮医療大学、甲南女子大学、大阪保健医療大学、関西医療大学、阪奈中央リハビリテーション専門学校、大阪医療福祉専門学校）

【診療・部署実績】

2022年度理学療法（PT）実施患者件数

	入院	外来	合計
4月	1,354	22	1,376
5月	1,424	21	1,445
6月	1,426	25	1,451
7月	1,468	29	1,497
8月	1,249	33	1,282
9月	1,345	23	1,368
10月	1,310	24	1,334
11月	1,324	32	1,356
12月	1,194	33	1,227
1月	1,479	35	1,514
2月	1,326	36	1,362
3月	1,488	41	1,529
合計	16,387	354	16,741

2022年度作業療法（OT）実施患者件数

	入院	外来	合計
4月	928	26	954
5月	946	24	970
6月	1,090	27	1,117
7月	1,109	22	1,131
8月	1,000	25	1,025
9月	1,067	16	1,083
10月	1,098	21	1,119
11月	1,080	24	1,104
12月	932	31	963
1月	1,082	29	1,111
2月	1,015	33	1,048
3月	1,122	34	1,156
合計	12,469	312	12,781

2022年度言語聴覚療法（ST）実施患者件数

	入院	外来	合計
4月	821	26	847
5月	870	19	889
6月	979	25	1,004
7月	1,018	20	1,038
8月	939	31	970
9月	968	27	995
10月	932	28	960
11月	932	26	958
12月	851	29	880
1月	990	29	1,019
2月	929	40	969
3月	1,072	47	1,119
合計	11,301	347	11,648

◆放射線科

【部署概要】

患者様に対し安全かつ丁寧な対応を行う
医療機器の保守管理を徹底する

【診療・部署体制】

東芝製 X 線発生装置（現：キヤノン）を 1 台設置しており、FCR システムにて画像の提供を行っている。
撮影業務は週 3 日で、月曜日・水曜日・金曜日に対応している。それ以外の曜日は必要に応じて撮影を行っている。
専属の技師が 1 人在籍しており撮影を行っているが、総合病院の技師も撮影の対応を行っている。
一般撮影以外の CT 検査、MRI 検査は、総合病院と連携をとっており、総合病院放射線科に検査を委託している。

【特色・トピックス】

リハビリテーション科及び脳神経内科、整形外科より依頼を受け、一般撮影業務を行う。主に入院中の患者様の胸部・腹部・骨撮影を行っている。
撮影した画像は総合病院と連携しており、総合病院の画像サーバーに保管される。電子カルテも同様に総合病院と連携しているので、画像は電子カルテより見ることができる。
他医からの画像 CD データの取り込みを総合病院放射線科に依頼し、画像データをサーバーに保存している。
年 1 回、「診療用放射線の安全利用のための研修」を e-learning にて実施している。

【診療・部署実績】

2022年度実績 検査件数及び実日数（2022年4月～2023年3月）

	検査件数	実日数		検査件数	実日数
4月	28件	10日	10月	12件	8日
5月	21件	9日	11月	12件	6日
6月	19件	11日	12月	10件	5日
7月	16件	9日	1月	15件	7日
8月	13件	9日	2月	12件	8日
9月	14件	7日	3月	7件	5日

◆医療生活相談室

【部署概要】

全入院患者ひとりひとりに担当者が付き、入院時から患者・家族と継続的な関係を構築し、必要に応じて援助出来る体制を整えている。系列・他病院からの入院相談を経て退院後の生活の再構築に至るまで一連の退院支援を行っている。

【診療・部署体制】

社会福祉士2名。入院患者は全担当制、相談専門職として関わっている。

【特色・トピックス】

入院相談(系列、他病院)
入院時インテーク(初回)面談
経済問題援助
転院相談(療養型病院、介護老人保健施設など)
転居相談(引越し、特別養護老人ホーム、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅への入居)
退院援助(他機関との連携、退院前カンファレンスや家屋調査の調整)
独居患者の諸対応(必要時居宅訪問、生活必需品の準備、金銭管理の補助)
リハビリカンファレンス参加
外来患者対応
病棟ミーティングへの参加
ベッドコントロール会議への参加

【診療・部署実績】

本年度より、退院調整看護師不在の中での退院支援を行うことになった。前年度までは、在宅調整における介助指導など退院調整看護師と協議し取り組んでいたが、相談員が各担当者と直接連携を図ることとなり、従来のやり方から工夫をしながら取り組んだ一年であった。

前年通りの感染対策も継続しており、日々の電話連絡業務が多く、またリハビリ見学が出来ないため退院前カンファレンスという形での情報共有の場作りにも努めた。その結果、前年度比通りの自宅退院を支援することが出来たと思う。

令和4年度の相談室の対応件数について報告する。

退院先は自宅退院が最も多く163件。

治療目的での多根総合病院への転院が41件。

老健への入所が22件、そのうちてんぼ一ざんへ5件。

療養型病院への転院が8件、そのうち多根第二病院へ5件。

回復期リハビリテーション病院への転院は2件。障害者病棟への転院1件。

特養への入所が4件。

住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などへの転居が11件だった。

また、当院の外来リハビリへ4件、訪問リハビリへ3件移行、系列の居宅介護支援事業所へ19件紹介し、退院後も必要に応じて連携を図り継続した支援を行っている。

他院からの入院相談は102件の相談があり、41件受け入れ方向で調整し、受け入れに繋がったのは半数の21件だった。その背景として、受け入れ方向で検討するも多根総合病院からの受け入れを優先することや、コロナ発生状況により待機期間が長期化する傾向がみられたためである。

令和5年度からは、担当者が個々で連携を図るのではなく定期的にカンファレンスにて情報共有する場を用いる予定である。日々院内連携のあり方を検討しながら、相談室として入院患者、家族への援助支援をより丁寧なものにできるよう取り組んでいきたいと思う。

令和4年度脳神経リハビリテーション病院 医療生活相談室 援助内容実績

(令和4年4月1日～令和5年3月31日に退院された患者。複数回入院している場合は最終退院時に計上。)

	脳神経内科	脳神経外科	整形外科	他科	他院	合計
インテーク	109	48	37	4	22	220
在宅復帰	78	35	33	3	18	167
転居	7	5	2	0	0	14
転院相談	26	8	2	1	4	41
経済問題	4	3	0	0	0	7
受診受療	8	4	5	0	12	29
外出同行	7	1	0	0	1	9
自宅訪問	6	5	1	0	1	13
退院カンファ	30	14	16	0	10	70
他機関連携	90	36	30	1	20	177
介護保険	98	44	33	3	21	199
障がい福祉	5	1	2		1	9
その他						

◆薬局

【部署概要】

病院内使用薬剤管理全般（院内処方、持参薬、常備薬）について安全で効果的な使用が出来るよう業務を行っている。
服薬指導では、自宅へ帰った際に適切に自己服薬管理が出来るよう指導を行っている。
医療チーム参加と医薬品の安全管理部門として病棟業務を行い、適切な薬物治療が行えるよう関わっていく。
院内ネットワークを通じて安全性情報、薬剤情報の公開・情報共有を行っている。
コンピュータスキルを生かし、電子カルテシステム・院内ホームページの管理等を行っている。
処方の代行修正を行っている。
法人4病院で協力して薬学生実務実習を行っている。

【診療・部署体制】

薬剤供給

医薬品情報を加味した安全かつ安定的な医薬品供給を提供する。薬剤購入費の圧縮・廃棄薬剤の削減。

調剤業務

自動錠剤分包機等を使用し院内調剤の一包化を実施している。

服薬指導

服薬指導の充実をもって患者満足度の向上を図る。具体的には使用薬剤の全般的な管理と電子カルテ情報の有効な使用をめざし、補助ツールの開発と使用手順を確立していく。退院時の薬局サマリー付与。

投薬管理

副作用発現チェック体制・ハイリスク薬管理体制の強化を行う。

業務

薬局アクシデント件数を0にするべく業務改善をおこなう。

情報管理

医療安全の推進・院内感染防止・褥瘡対策について、情報共有・伝達を推進する。（各2回/年）

実習生の受け入れ

病院実務実習を通して、薬剤師の確保と指導薬剤師のレベルアップを目的とし、実習受け入れ業務を整備する。

電子カルテ運用

電子カルテシステムの効率的な使用が出来るよう、補助システムの構築を行う。

処方代行入力を行い医師の診療補助を行う。

【特色・トピックス】

注射業務：入院患者処方箋枚数 43.9枚/月

後発品置き換え率：93.5%（2022/4月～2023/3月）

服薬指導：「薬のしおり」「お薬手帳」の活用、持参薬管理、退院時薬剤管理サマリーの発行

感染対策：感染レポート作成、抗菌薬使用届管理

病棟業務：配薬カート使用・お薬カレンダー使用推奨・段階的自己管理

持参薬管理（薬局にて管理し、7日分ずつ投薬）

薬学実務実習：3期3名

医療安全：「医薬品・医療機器等安全性情報」「PMDA安全性情報」「医療事故情報

収集事業 医療安全情報」の院内伝達・情報共有

「医薬品・医療機器等安全性情報」N o 391～399

「PMDA安全性情報」58改、64～65

「医療事故情報収集事業 医療安全情報」N o 185～196

電子カルテ：自作プログラム運用・管理（「処方一覧」）

医療安全講習会（薬局主催）

2022.5.9 医療安全・感染対策講習会

「標準予防策・新型コロナウイルス感染症」

【診療・部署実績】

処方箋枚数・調剤件数						
	入院内服処方箋			入院注射	外来注射	外来処方箋
	枚数	件数	剤数	枚数	枚数	枚数
2022年4月	514	1259	1553	28	3	27
5月	475	1164	1400	33	3	20
6月	479	1299	1584	12	3	34
7月	453	1260	1497	42	6	31
8月	411	1155	1380	85	2	31
9月	436	1254	1426	46	4	34
10月	437	1127	1267	27	5	26
11月	479	1313	1512	54	3	29
12月	473	1136	1328	81	4	28
2023年1月	464	1183	1425	63	3	19
2月	487	1235	1478	31	1	29
3月	586	1422	1684	25	6	23
合計	5694	14807	17534	527	43	331
月平均	474.5	1233.9	1461.2	43.9	3.6	27.6

薬剤管理指導				
	服薬指導人数	服薬指導件数	カンファレンス記録	代行修正
2022年4月	61	67	64	12
5月	63	67	62	8
6月	63	81	72	8
7月	64	69	84	14
8月	56	53	60	8
9月	60	71	63	5
10月	64	76	66	8
11月	59	64	62	3
12月	67	58	75	10
2023年1月	59	35	60	6
2月	65	52	71	7
3月	66	50	76	7
合計	747	743	815	96
月平均	62.3	61.9	67.9	8.0

◆栄養科

【部署概要】

栄養管理、栄養計画書の作成、献立確認、栄養指導、栄養相談の実施。給食管理は日清医療食品と共同して季節ごとに7週サイクルメニューを提供。咀嚼・嚥下機能に適した食形態、アレルギーや嗜好など個別対応にも応じている。

【診療・部署体制】

管理栄養士 1名

給食業務は日清医療食品に委託（日清側栄養士 1名、調理師 2名、調理員 4名）

【特色・トピックス】

- ・栄養管理業務
 - 栄養指導・栄養相談の実施
 - スクリーニング、栄養管理計画書、モニタリングの定期的な繰り返し
 - NST対象患者の抽出（月1回）
- ・給食管理業務
 - 行事食の実施（月1-3回）
 - 嗜好調査の実施（年2回）
- ・給食委員会、NST会議の開催
- ・カンファレンス、各委員会への参加
- ・院内食事規約の改訂

【診療・部署実績】

《月別食事提供数》												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食	1647	1715	1464	1508	1322	1635	2117	2117	1705	2112	2042	2017
特別食	1921	1972	2182	2301	2104	1827	1277	1212	1387	1804	1647	2090
経管栄養	484	560	578	509	436	549	500	619	616	507	230	306
合計	4052	4247	4224	4318	3862	4011	3894	3948	3708	4423	3919	4413

《行事食》		
4月	春の季節献立	五目ちらし寿司・酢味噌和え・吸い物・ミルクレープ
5月	こどもの日	五目ちらし寿司・酢味噌和え・吸い物・かしわ饅頭
6月	開院記念日	いなり寿司・鰻入り太巻き寿司・酢味噌和え・吸い物・ゴールドンキウイ
7月	七夕	枝豆ご飯・天の川そうめん・炒り鶏・スイカ
	土用の丑	うな重・酢味噌和え・赤だし・スイカ
8月	お盆	あなごちらし寿司・辛子酢みそ和え・吸い物・スイカ
9月	敬老の日	鮭といくらの散らし寿司・ごま和え・赤だし・ケーキ
	十五夜	お月見饅頭
10月	秋の实り	栗ご飯・鯖の塩焼き・しぎ煮・のっぺい汁
11月	七五三	鮭といくらの散らし寿司・ポン酢和え・赤だし・りんごきんとん
12月	クリスマス	焼きたてパン・クリームシチュー・サラダ・ケーキ
	冬至	南瓜のいとこ煮
	大晦日	年越しそば
1月	元旦	おせち料理
	七草	七草粥
2月	節分	いなり寿司・太巻き寿司・酢味噌和え・けんちん汁・節分豆
3月	ひな祭り	ひなちらし寿司・辛子酢味噌和え・吸い物・ひな饅頭

◆事務部

【部署概要】

事務部医事課は、窓口業務、請求業務、収支・未収金管理、予算立案などの事務部門及び設備管理、防火・防災管理、業務委託管理などの施設部門を担当している。

施設基準の正確な把握、適正な維持。診療報酬、介護報酬をより理解し、正確で迅速な請求業務を行い、請求漏れのないように注意している。

【診療・部署体制】

主な業務

外来入院業務(受付・会計・コンピューター入力・レセプト業務・請求書作成・電話交換業務)

訪問リハビリ業務(指示書依頼・レセプト業務・請求書作成)

各種委員会開催、立入検査対策、施設基準遵守、各部署と連絡調整、苦情処理、

消防訓練対応、予算立案達成、法人内施設との連絡調整、院内各部署との連絡調整、

設備管理(院内掲示物・防災センターと協力して設備機器の管理等)

【特色・トピックス】

防災計画に基づき、消防訓練を年2回実施済み。

【資格一覧】

施設： 多根脳神経リハビリテーション病院 部署：診療部

役職・氏名	資格
院長・青池太志 (2023.01～)	リハビリテーション科専門医、脳神経内科専門医
副院長・柳川伸子	脳神経外科専門医
顧問・奥田佳延	リハビリテーション科専門医、脳神経内科専門医
(非常勤)片田珠美	精神保健指定医

施設： 多根脳神経リハビリテーション病院 部署：看護部

人数	資格
1名	一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会認定回復期リハビリテーション看護師
1名	3学会合同呼吸療法認定士
1名	認定看護管理者
1名	摂食・嚥下障害看護認定看護師

施設： 多根脳神経リハビリテーション病院 部署：リハビリテーション科

人数	資格
1名	回復期セラピストマネージャー
2名	3学会合同呼吸認定療法士
2名	福祉住環境コーディネーター2級
1名	LSVT BIG
1名	LSVT LOUD

施設： 多根脳神経リハビリテーション病院 部署：薬局

人数	資格
1名	実務実習指導薬剤師
1名	研修認定薬剤師
1名	老年薬学認定薬剤師
1名	介護支援専門員
1名	初級システムアドミニストレーター

施設： 多根脳神経リハビリテーション病院 部署：栄養科

人数	資格
1名	N S T 専門療法士

施設： 多根脳神経リハビリテーション病院 部署：医療生活相談室

人数	資格
1名	介護支援専門員

【学会発表】

【学会発表】

施設： 多根脳神経リハビリテーション病院

部署： 看護部

会名称	第 51 回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会		
発表テーマ	回復期リハビリテーション病院における転倒・転落事象の分析		
日時	2022 年 9 月 3 日	発表者	豊田 尚子
場所	オンライン		